

伊勢堂岱遺跡

世界遺産登録に向けて大きく前進



文化庁発表「北海道・北東北の縄文遺跡群」が暫定リスト入り



伊勢堂岱遺跡

内陸線小ヶ田駅そばの台地上に立地する遺跡。直径30mを超える4つの環状列石を有し、多くの土杭墓、配石遺構などが確認されていることなどから、大規模な祭祀場の跡ではないかと考えられています

文化庁は9月26日、世界文化遺産登録へのステップとなる暫定リストに北秋田市の伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」(秋田県など4道県)、「金と銀の島、佐渡(新潟県)など5件を追加することを発表しました。国内暫定リストへの追加が決まったことにより、伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録に向けて大きく前進しました。

直径30mを超える4つのストーンサークルが大きな特徴

文化庁の発表は、平成19年度に地方公共団体から提出された世界遺産暫定一覽表(暫定リスト)追加資産に係る提案について、世界文化遺産特別委員会による調査・審議結果がまとまり、9月26日の文化審議会に報告・了承されたことを受けたものです。

伊勢堂岱遺跡は秋田内陸線小ヶ田駅付近の台地に位置する縄文時代後期前半(約4千年前)の遺跡。平成7年、大館能代空港のアクセス道路建設に先立ち発掘調査で見えられ、直径30mを超える4つの環状列石や配石遺構、掘

大湯環状列石と2遺跡で目指した申請では継続審査

世界遺産登録については、秋田県が平成18年11月、伊勢堂岱遺跡と大湯環状列石を、ストーンサークルとして暫定リスト候補入りを目指し文化庁に申請しましたが、継続審査となりました。

秋田県教育委員会では、継続審査となった理由の一つに、「広域に所在する同種・同時代の資

産との比較・統合の検討」という課題があった

ことなどを踏まえ、同じ縄文時代の遺跡を資産として提案書を提出した青森県をはじめ岩手、北海道の4道県とともに協議を進めることになりました。

4道県が「北海道・北東北の縄文遺跡群」として再申請

同年6月、青森、岩手、秋田の北東北3県と北海道は、縄文遺跡群世界文化遺産登録推進会議を開き、世界遺産登録を目指して文化庁に提案する遺跡群の仮称を「北海道・北東北の縄文遺跡群」と名付けて運動を展開することを確認し



大湯環状列石

鹿角市大湯にある縄文時代後期の遺跡。遺跡の中心には直径45m以上の万座・野中堂の2つの環状列石があります

ました。

8月には北海道旭川市で開催された、第11回北海道・北東北知事サミットにおいて、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界遺産暫定リスト登録に向けた共同提案を行うことが正式合意され、同年12月、寺田秋田県知事ほか4道県の知事が文化庁に同遺跡群の提案書を提出していました。

この結果、同遺跡群が日本の歴史のうち、約1万年もの長期にわたって継続した先史文化を表し、自然と人間の共生を示す考古学的遺跡として顕著な普遍的価値を持つ可能性が高い」と認められたものです。

ただし、文化庁からは、「落葉広葉樹林帯が広く展開する東日本まで範囲を拡大した上で、縄文文化を代表するような遺跡を追加するなど再検討し、適切な名称を設定した上で暫定一覽表に記載するよう」課題が示されていることから、北秋田市教育委員会では県教委などとも協議の上、確実に世界遺産に登録されるよう取り組みを進めることにしています。

「本登録を目指し取り組みを進めたい」 岸部市長

岸部市長は、リスト追加の発表を受け、採択はひとえに市民の遺跡に対する愛着と、保存に對するご尽力の賜物でありともに喜び合いたい。今後、国、県ならびに関係の各市町と連携しながら、世界遺産の本登録を目指して取り組ん

でまいりたい」と述べました。

平成19年度に地方公共団体から提出された32件の提案(新規13件・再提案19件)のうち、暫定一覽表に記載することが適当と認められた案件は次の5件です。

暫定一覽表追加案件

「北海道・北東北の縄文遺跡群」

「金と銀の島、佐渡(新潟県)」

「九州・山口の近代化産業遺産群」(福岡県、佐賀県・長崎県・熊本県・鹿児島県・山口県)

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」(福岡県)

「百舌鳥・古市古墳群」(大阪府)

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は秋田県、北海道・青森県・岩手県及び12市町の共同提案。構成資産は次のとおりです。

秋田県

伊勢堂岱遺跡(北秋田市) 大湯環状列石(鹿角市)

青森県

三内丸山遺跡(青森市) 小牧野遺跡(同)

是川石器時代遺跡(八戸市) 長七谷地貝塚(同)

亀ヶ岡石器時代遺跡(つがる市) 田小屋野貝塚(同)

二ツ森貝塚(七戸町) 大平山元遺跡(外ヶ浜町)

岩手県

御所野遺跡(一戸町)

北海道

北黄金貝塚(伊達市)

入江・高砂貝塚(洞爺湖町)

鷲ノ木遺跡(森町)

大船遺跡(函館市)